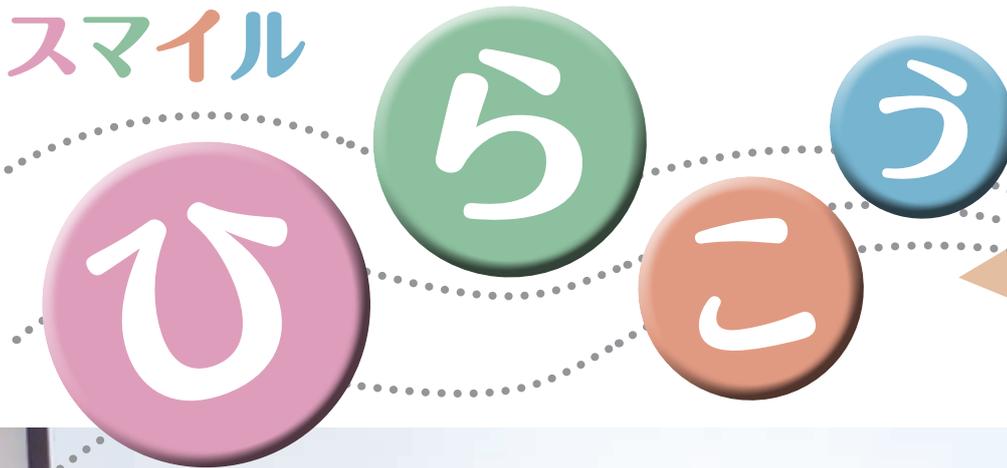


スマイル



2015

3



特集

当院のNST(栄養サポートチーム)の取り組み 《早期退院を目指す》

枚方公済病院 理念と基本方針／エキスパートナース⑩／Information／
副院長のひとり言⑥／眼科診療体制(予告)／CEのつづやき⑩

《早期退院を目指す》 当院のNST（栄養サポートチーム）の取り組み



外科副部長 NST委員長 韓 秀炫

当院では昨年度より NST 加算を算定するようになりました。この制度では栄養不良の患者さんを早期に発見し、チームで治療にあたることが求められており、我々も知識の習得に努めてきました。今回、非常に管理の困難な症例「短腸症候群」を経験しましたので、チームでの発表会を行いました。また、在宅への復帰に向けて退院調整を行う MSW の方々の関与についても発表していただきました。

短腸症候群の患者さんは、20 年前には栄養失調や肝不全、感染症で亡くなるケースが多く、1 年生存率が 10% 程度であるとされていました。最近では HPN（在宅高カロリー輸液）などの在宅での栄養管理、脂肪乳剤や微量元素の投与などにより長期生存も可能になってきています。

今回の症例の概略について説明し、栄養管理についての問題点（栄養ルート、脂肪肝から肝障害への悪化を抑えるための ω 3 系脂肪乳剤の必要性）などを発表しました。



管理栄養士 原 智恵

本症例は小腸の残存部位が 20cm と非常に短く、腸管からの栄養素の吸収がほぼ期待出来ない症例でありました。本人の経口摂取意欲は強く経口摂取も十分なされており TPN も併せた提供栄養量は必要エネルギー量の倍量でした。しかし、BS は 100 代で安定して推移していました。腸管からの吸収はほぼなされていないと考え、TPN 離脱困難な症例でありました。

栄養状態の悪化は必要エネルギー量に対する不足から生じます。「高齢者だから栄養量は少なくとも大丈夫！」と言う先入観を捨て、個々にあった必要エネルギーとはどの程度なのかを常に考えアプローチすることが必要です。また、栄養量確保の為に出来る限り個人の能力を活かした自然な形がベストです。



薬剤師 辻 是道

患者さんの全身状態、検査値、必要カロリー、摂食量を考慮し、適切な薬剤や輸液を検討します。具体的には、

脂肪乳剤の投与不足による必須脂肪酸欠乏、投与速度の超過での人為的な高TG血症による合併症などに注意して活動しています。

今回の症例は残存小腸長 20cm と経口からのカロリー摂取が期待できないため、TPN での栄養補給に依存せざるをえませんでした。そのため、水分・電解質・必須脂肪酸欠乏などの欠乏や肝機能障害、脂肪肝に気をつける必要がありました。さらに、抗凝固剤としてワーファリンを服用されており、在宅での管理を目指されていたため、高カロリー輸液（バック製剤）・脂肪乳剤中に含まれる VK との相互作用も問題になりました。



臨床検査技師 田中 昌美

今回は残存小腸が短い短腸症候群の NST 活動を行いました。

検査技師という立場から、実際に腸から栄養が吸収されているのか、という点を検査データから検討しました。TPN と経口摂取で必要カロリーは摂取できているのに、アルブミン値や中性脂肪、コレステロール値は徐々に低下していました。

また、近年腸管リハビリテーションの評価に用いられ TPN 離脱の指標とされている血清シトルリン値も NST で初めて測定しました。このことから腸での吸収はほとんどされていない可能性が示唆されました。



地域医療連携室 社会福祉士 丹羽 郁子

医療ソーシャルワーカーとして、退院後に自宅で生活していくためにはどのような問題があるのか、どのような社会資源を利用できるのか、患者さんやご家族様そして主治医や病棟看護師と相談し退院支援を行いました。問題点としては、

- ①医療面での支援が必要であること。
 - ② ADL は自立であるが行動範囲の制限があり生活支援が必要であること。
 - ③家族の協力が得られないこと。
 - ④経済的な問題。もありました。
- 支援方法として、

- ①患者さん本人が病気を理解し自己管理できるように主治医や看護師・NST メンバーから教育・指導を進める。
 - ②身体障害者申請、障害者福祉サービスの利用、往診医や訪問看護師との連携等の社会資源を調整する。
 - ③退院前カンファレンスを開催する。それにより自宅退院の運びとなりました。
- 病院スタッフと共に地域の医療・福祉・保健機関と連携をして、日々支援活動にはげんでいきたいと考えています。



地域医療連携室 社会福祉士 中島 慶子

今回の NST 発表会では、医療ソーシャルワーカーの業務内容と介護施設の種類について説明しました。

医療ソーシャルワーカーの仕事は、法上の業務規定がなく、職場の多様性とあいまって病院によって仕事内容が異なっています。従って、他職種にとって医療ソーシャルワーカーの役割が見えにくい部分があると考えられます。当院での実務を他職種に伝えることにより、私たち医療ソーシャルワーカーの役割を理解して頂きたいと考えます。

介護施設の説明では、まず、公共型（社会福祉法人や地方自治体が運営する公的な施設）と民間型（民間事業者が運営する介護施設）の施設の種類について発表しました。次に、今回のテーマに即して食事面に注目し、介護施設がどこまでの栄養管理が可能であるかを重点的に説明しました。患者さんは点滴、胃瘻、経鼻栄養の方がたくさんおられます。その患者さんが希望する退院先がどのようなところか、介護施設がどのような患者さんを受け入れてくれるのかを各専門職に認識して頂き、退院支援に役立てたいと考えます。



枚方公済病院 理念と基本方針

理念：医療への貢献と奉仕

医療への貢献とは、医療職に就く全員が一丸となって病気に悩む患者さんと対峙し、包括的かつ個別的に何ができるかを問い、安全、安心な医療の実現のために最大限の職務責任を果たす。さらに、医療の進歩のために日々の自己研鑽と努力を惜しまず精進する。

医療への奉仕とは、優しい医療、頼れる医療を目指して、全身全霊をかけ奉仕の精神で目標に立ち向かう病院になること。

基本方針

- 地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する。
- 患者さんの立場を尊重した合理的かつ安全な医療を行う。
- 病院は働き甲斐のある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励む。
- 強く、優しく、頼れる病院を目指す。

平成 27 年 2 月制定

就任して2年になりました。この間、スタッフのお蔭で、前向きで元気な病院になっています。各科の取り組みが強固であり、患者さんに優しく、さらにはスタッフ間、あるいは患者さんとの信頼関係が強い病院であることを目指してきました。病診、病診薬、そして病病連携の強い地域完結型の医療を目指しています。幸い、当院では救急を中心に広く活動し、後方支援の循環器、消化器を中心に各科の連携で医療に貢献できていると信じます。

今回、病院目標としての理念を明確に打ち立てることにしました。ここに挙げた

“医療への貢献と奉仕”です。医療職に就いたものはプロとして当然医療へ貢献することを考えますが、悩める人への奉仕という気持ちは基本にあるべきです。奢らず、かといって遜ることはありません。毅然としてプロ意識を発揮してほしいと考えています。若手の育成もこれからの課題です。高い医療水準を保ちながら、優しい医療を達成するには人の力が重要です。人材を育成し（人財）、医療へ貢献／奉仕できるチームワークの良い病院であれば素晴らしいであろうと期待しています。



枚方公済病院長
野原 隆司

エキスパートナース

10

病院では、様々な専門職種が連携し、協力し合って医療を提供しています。そうした医療チームの中で一番の大所帯は、間違いなく看護部です。

このコーナーでは、そんな看護師の活動やニュースを主に取り扱っていきます。

当院では、キャリアラダーシステムを導入しています。

キャリアラダーシステムとは、実務経験歴に基づき、看護師として求められる看護実践能力や役割遂行能力、教育や研究能力を向上させ、キャリア開発をしていくためのシステムです。当院のキャリアラダーシステムでは、主に実務経験4～5年目以上の看護師が目指すラダーレベルⅢの課題として、看護研究のプロセスを学び、研究をまとめ発表するという課題があります。また、ラダーレベルⅣ以上でも、看護研究活動の支援をすることを目標の1つとしています。



看護師の仕事というと、患者さんのお世話をすることや、医師の指示に従って点滴をしたり注射をしたりという医療処置ばかりがイメージされますが、専門職として提供するケアには科学的根拠が必要です。この科学的根拠を看護研究は提供してくれるものとなり、臨床現場での看護実践の事象を記述し、また看護実践の事象を支えるための調査研究活動をいいます。フローレンス・ナイチンゲールが「看護という言葉に対する共通理解から看護学を始めなければならない」と説いているように、看護に対する共通理解を示すものにもなります。看護師の質と意識の向上をはかるためにも、看護研究は重要な課題なのです。

2014年度に取りまとめられた看護研究は、2015年3月7日に院内で発表会を行いました。

発表された看護研究テーマの一部を紹介します。

- せん妄の早期発見のためのDSTツール導入と看護師へのせん妄勉強会を実施して
- 病棟での円滑な支援を目指して Part3
より良い退院支援にむけたフローチャートの有用性
- 点滴自己抜去予測の検討
患者の共通項と看護師の経験的予測の考察



看護研究で取り上げられるテーマは、先行研究をさらに深めるものもありますが、自然と「日々の疑問や困りごと」が多くなります。

上記に挙げた研究は、高齢化社会となり入院患者さんも高齢化したことによって、まさしく現在の病棟で看護師が直面している問題がテーマになっています。

日進月歩する医療や、時代のニーズに沿うよう先行研究を深めるものもあり、今回はテーマだけの紹介でしたが、看護師の日々の取り組みの一端を感じていただけたらと思います。

1号館4階西病棟看護師 小川 誉世

● 糖尿病教室のお知らせ

糖尿病の患者さんを始め、「家族や友人が糖尿病」「糖尿病予備軍と言われた」「糖尿病を知りたい」など、糖尿病に興味のある方どなたでも参加できます。ぜひお気軽に参加ください。

日 付：3月24日（火）午後1時過ぎより

場 所：枚方公済病院 セミナールーム1（2号館・ニューヤマザキデイリーストアの横）

テーマ：「もう一度糖尿病食を見直しませんか？」

● 肝臓病教室のお知らせ

慢性肝炎・肝硬変・肝臓がんなどの慢性肝臓病を抱える患者さんを対象に、肝臓病に関する情報を提供するための教室を開催します。

医師・薬剤師・栄養士・看護師からの講話や、患者さん同士のグループワークなどを行います。

日 時：3月25日（水）午後2時～4時

場 所：枚方公済病院 セミナールーム1（2号館・ニューヤマザキデイリーストアの横）

テーマ：「慢性肝炎とは；抗ウイルス治療について」

● 北河内病診連携懇談会を開催しました。

平成27年2月28日（土）当院セミナールームにて16時より開催しました。特別講演の宮地先生は京都大学皮膚科教授を長年にわたり勤められた後、平成26年10月より現職に就任されました。豊富な臨床・研究のご経験より、貴重なお話しが拝聴できました。

< 講演 1 >

『当院で経験した症例』

皮膚科 医長 西脇 冬子

< 講演 2 >

『当科における SGLT2 阻害薬の使用経験』

内分泌代謝内科 部長 加藤 星河

< 特別講演 >

『皮膚で見つける全身疾患』

滋賀県立成人病センター 病院長 宮地 良樹先生





枚方公済病院 副院長
石井 賢二

枚方公済病院のY部長は、赴任当時はプクプク太っていました。おまけに健康診断で糖尿病も発見されました。彼は焼き肉が好物で、当然ビールも大好き、ワインも通でした。私は毎日会っているし、観察力もないので気がつかなかったのですが、みるみるうちに細くなっていきました。スワ、糖尿病の悪化か、と思いきや、どうやら毎日1時間、京阪牧野駅まで歩いていたらしいのです。私も時にまねてみたのですが、徒歩、電車、バスと片道2時間もかかるので断念しました。

Y部長はその後、電車の沿線でない処へ移転し、大きな車で通勤する姿を見かけるようになりました。しかし、スリムな体型は保ったままでした。どうやら新居で大きな犬を飼い、おまけに猫も2匹飼っているらしく、宴会ではiPhoneを取り出して犬と猫が仲良くならんだ写真をうれしそうに見せています。あい変わらず焼き肉には通っていますが、糖尿病は悪化しているようではありません。歩くだけで健康を保てるとしたらすばらしいことですが、時間がかかることが悩みの種です。

眼科、来年度の
診療体制(予告)

4月より眼科医師1名を加え2名体制で臨みます。今後手術は白内障・緑内障と、これまで対応できなかった硝子体手術や斜視手術も行う予定にしています。次号で詳細をお知らせします。



CEの つぶやき ⑩



寒さも和らぎ、少しずつ春を感じるようになってきました。暖かくなることは嬉しいことですが、季節の変わり目は体調を崩しやすくなりますので、注意が必要になります。

ご家庭でもできる健康管理法として血圧測定があります。血圧は様々な要素で変化するため、病院で測定すると高くなってしまったり、逆に自宅で測定すると高くなる場合があります。普段の血圧や、変化を知っておくと体調の変化にも気づきやす

くなります。

昔は血圧と言えば水銀計でしたが、現在では病院でも電子血圧計を使うようになりました。電子血圧計は大きく分けて3種類の血圧測定器が販売されています。最も一般的なものは上腕に巻きつけるタイプのものです。昔からありますので馴染みがありますが、いざ一人で計ろうとすると自分の腕に巻きつけるのは以外と難しかったりします。家庭用では巻きつけやすいように工夫されているものもありますので、一度ご自身で巻きつけてみてから購入することをお勧めします。

もう一つは上腕で測定しますが、輪の中に腕を通すだけで測定できます。病院の待合室や公共施設に置いているのはこのタイプが多いです。腕器巻きつける必要がなく、簡単かつ正確に測定できます。しかし、高価で場所を取ってしまうことが欠点となります。

最後に3つ目は手首で計るタイプです。安価でコンパクトなため便利ですが、注意も必要です。測定時に手首を心臓の高さに維持しなければ、正確には測定できません。手首の高さが測定値に影響するため、誤差を生じやすいことが特徴です。

測定方法だけでなく、その他の機能も知っていると便利です。過去の測定値が記録されるメモリー機能や、パソコンと接続してグラフにしてくれるものもあります。毎日、血圧を測定するのは大変ですが、このような機能を使うと血圧を測ることも楽しみのひとつになるかもしれませんね。



臨床工学技士
木戸 悠人

編集後記

さくらが咲く季節を迎え、まだまだ肌寒さも残っておりますが、春の訪れを感じられるようになった今日この頃。この冬は、例年よりも冷え込んでいたので、なおのこと1日も早く暖くなるのを心待ちにしていたのではないのでしょうか。

春は、『入学』や『進級』など心機一転し新たな思いを抱きステップアップを目指す、またその反面で『卒業』という共に切磋琢磨してきた仲間との新たな旅立ちに寂しさも感じる一つの節目を迎える季節であると感じます。ふとそんなことを思い抱いたとき、自身の学生時代を思い出し、とても懐かしく新鮮な気持ちになりました。こんな風を感じられるのもこの季節の醍醐味でしょうか。

平成27年度もお役に立てるよう精一杯業務にあたってまいりますので、ご指導ご協力のほどよろしくお願い致します。

地域医療連携室 西田 知佳



国家公務員共済組合連合会
枚方公済病院

〒573-0153 大阪府枚方市藤阪東町1丁目2番1号
TEL 072 (858) 8233 FAX 072 (859) 1093
<http://kkh-hirakoh.org/>